

大阪化学の過去・いま・未来



大阪市立科学館
地下1階アトリウム (無料スペース)

大阪は化学の町。日本初の化学の学校「舎密局(せいみきょく)」がつけられたのも大阪。そして江戸、明治の時代から、化学にまつわる会社が大阪からたくさん誕生し、現在も国内そして世界で活躍を続けています。そんな数ある大阪生まれの化学メーカーの中からさまざまな分野の6つの企業・団体にご協力いただき、大阪で生まれた化学、大阪で進化を続ける化学を、各社の貴重な実物資料を通して、【過去】【いま】【未来】の視点でご紹介いたします。

第1期 2011年4月29日(金・祝)~7月31日(日)
大日本除虫菊株式会社
「日本の家庭用殺虫剤のはじまりと発展」
東洋紡績株式会社
「繊維の技術からフィルム、高機能繊維、バイオへ」

終了
しました

第2期 2011年8月4日(木)~10月23日(日)
株式会社サクラクレパス
「世界初の描画材料クレパス
最新の顔料製品まで」
タミノイ酢株式会社
「お酢づくりから健康で豊かな未来を創造」

終了
しました

第3期 2011年10月28日(金)~
2012年1月31日(火) 予定
大阪家庭薬協会
「昔も今もこれからも"日本の元気"を守る家庭薬」
株式会社ダイセル
「セルロイドの技術から様々な高機能化学製品へ」

- 主催：大阪市立科学館
- 出展：大阪家庭薬協会
株式会社サクラクレパス
株式会社ダイセル
大日本除虫菊株式会社
タミノイ酢株式会社
東洋紡績株式会社
(五十音順)
- 企画：岳川 有紀子
(大阪市立科学館 学芸員)



世界化学年 International Year of Chemistry

マリー・キュリー(キュリー夫人)がノーベル化学賞を受賞して100年目に当たることを記念して、国際連合総会で決定された世界共通のイベントです。"Chemistry-our life, our future"をスローガンに掲げ、化学に対する社会の理解促進、若い世代の化学への興味への喚起、創造的未來に向けた化学者の熱意への支援などを目的としています。

会場

大阪市立科学館
Osaka Science Museum

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-1
電話 06-6444-5656
ホームページ <http://www.sci-museum.jp/>
開館時間 9:30 ~ 17:00

アクセス

- ・地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」3号出口から西へ約500m
- ・京阪中之島線「渡辺橋駅」②出口から南西へ約400m
- ・阪神・JR大阪環状線「福島駅」、JR東西線「新福島駅」から南へ約900m
- ・市バス53号系統「田養橋」バス停下車南へすぐ

休館日

- ・毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌平日に休館)
- ・年末年始(12/28 ~ 1/4)
- ・臨時休館日あり



大阪化学の過去・いま・未来

第3期展示解説

2011年10月28日～2012年1月31日

大阪と化学

日本初の化学の学校は「舎密局(せいみきょく)」と呼ばれ、1869年(明治2年)、現在の中央区大手前に作られました。舎密(せいみ)とは、幕末期に広く使用されたオランダ語 chemie (化学の意)に対する当て字です。「化学」という言葉は、1860年(万延元年)の川本幸民による訳書「化学新書」において日本で初めて使われましたが、普及にはまだ時間が必要でした。この舎密局は、その後、いくつかの名前・所属を経て、京都大学の源流「第三高等学校」にまで発展しました。なお、大阪市立科学館4階には、舎密局に関する展示があります。

産業では、江戸幕府が成立した(1603年)頃から大阪(大坂)は国の経済の中心として整備され、米の換金は中之島、繊維は本町周辺、薬は道修町周辺、銅の精錬は長堀周辺、というように、特定の商品を取り扱う問屋や仲買が市中に軒を連ねるようになりました。このため大阪(大坂)の内外からさまざまな物資が運び込まれ、大部分は江戸をはじめ全国各地に搬出されました。これら産業は、化学と深い関わりのあるものも多く、こうした歴史の背景があり、大阪では化学にまつわる会社がたくさん誕生し、現在も国内そして世界で活躍を続けています。



浪花百景之セイミ局画(長谷川貞信画)



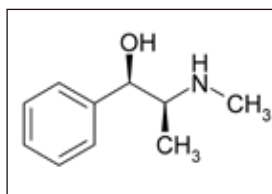
大阪生まれの家庭薬

セルフメディケーションー普段から自分に合った家庭薬を備えておくことは、もしものときや日々の健康管理のための大切な心得です。大阪家庭薬協会の会員企業である製薬メーカーは、より良い製品を、有益な情報と共に提供します。

大阪家庭薬協会

「昔も今もこれからも“日本の元氣”を守る家庭薬」

薬(医薬品)とは、飲んだり、塗ったり、注射したりすることで、人や動物の病気の診断、治療、予防を行うためのものです。薬局などで購入できる薬を、家庭薬(大衆薬、一般用医薬品)と言います。家庭薬は長年の使用経験により、有効性安全性が裏付けされた「くすり」で、主に自然からの生薬で造られていますが、化学が発達し始めた19世紀ころから、化学的に合成した化学薬品も配合し、生まれ変わった家庭薬も多く用いられるようになりました。



漢方薬「麻黄(まおう)」の主成分「エフェドリン」の分子構造

- 本社：大阪府大阪市中央区伏見町2-4-6(最寄駅：地下鉄堺筋線「北浜駅」)
- 創業：1945年(昭和20年)11月18日



化学遺産にも登録されたセルロイド人形

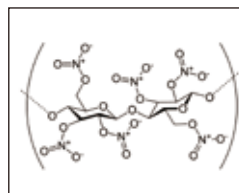
2011年3月、日本の近代化を象徴する『化学遺産』(日本化学会)のひとつとして、ダイセルが所有するセルロイド関係の建物および資料が認定されました。世界最初の汎用プラスチックであるセルロイドは、化学の進化によって誕生した新しい素材として、眼鏡フレームや洗面器、下敷きなどの生活用品を中心に、世界中でいろいろな製品に使われました。

株式会社ダイセル



「社会が求める機能を形に変える」

1868年、J.W. ハイヤットによって発明されたセルロイドは、人類が最初に合成したプラスチックでした。ダイセルは、セルロイドの国産化を原点に、その後、化学技術の深耕化によって、セルロース、有機合成、プラスチック、火工品など、様々な分野で高機能な化学製品を生み出すことによって、社会の求める機能を形に変え、人々の生活の豊かさ向上に大きく貢献しています。



セルロイド「硝酸セルロース」の構造の一部

- 本社：大阪府大阪市北区梅田3-4-5(最寄駅：JR大阪駅)
- 創業：1919年(大正8年)9月8日

大阪市立科学館 世界化学年 関連行事



サイエンスショー「プラスチックでおもしろ実験！」

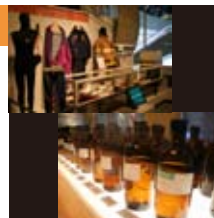
2011年9月1日～11月27日

展示場3階 サイエンスショーコーナー
プラスチックを作る…?プラスチックをあたためる…?
形をおぼえるプラスチック…?おもしろ実験が大集合。

「身近に化学」フロア

展示場3階

日本最大級の「化学」をテーマにした常設展。「石・宝石」「プラスチック」「繊維」「薬」「におい」を化学の視点でご紹介。



このほかにも、さまざまな世界化学年イベントを開催します。イベント情報や詳細は、大阪市立科学館ホームページをご覧ください。

大阪市立科学館 検索 <http://www.sci-museum.jp/chemistry2011/>

